



パフテラスト心身障害児(者)を守る会
愛の手を

第172号

発行責任者
 社会福祉法人 パフテラスト心身
 障害児(者)を守る会
 重症心身障害児施設 久山療
 育園重症児者医療療育センター
 理事長 山田雄次
 編集責任者 馬原哲治
 福岡県粕屋郡久山町大字
 久原 1869
 ☎代 (092)976-2281
 FAX (092)976-2172

在宅障害児者に支援の愛の手を

福岡城西キリスト教会名誉牧師 安藤 榮雄

西日本新聞(二〇一三年二月八日朝刊)に、福岡県が、重症心身障害児者(以下、重症児者)の現状とニーズを把握するために実態調査を行ない、結果が次のように報じられました。重症児者の総数は県全体で三、〇一九人、そのうち在宅は一、九三八人で、約六四%。ほぼ全体の三分の二が在宅重症児者なのです。一八歳未満では、実に、八九%、大半が在宅で暮らしていると言います。何らかの事情で重症児施設に入れない・入らない重症児者が多数いるのです。西日本新聞は、「とまり木どこに 在宅障害者の家族は」と6回のシリーズを組み、在宅障害児者の家族、とりわけ母親たちの悪戦苦闘、胸に迫る介護の現実が具体的に語られています。「母親が長男を預けるのも、弟の運動会など前もって日程が分かる場合だけ」「急な病気で自分が緊急入院することになったが、入院先が息子の受け入れを拒んだ」「運が良かった、で済まされるケースがあまりにも多い」「自分が動けなくなったなら、どうするか。頭から離れない」など子のケアを一身に背負う「安眠を知らぬ母」の姿が書かれています。

いま、久山療育園重症児者医療療育センター(以下、久山療育園)が在宅支援プロジェクトに取り組み始めたことは大きなことだと思います。これまで久山療育園が積み上げてきた経験・知識、とりわけ、「児・者分離」や「療育と医療の分離」という強力な流れに押し流されることなく、障害児者に不可欠な「児・者一貫性」、「療育・医療の必要性」を広げる一つのチャンスとなり得ると考えるからです。それはまた、久山療育園の「障害児者を社会の中心に」という「初めの志」にも通じると思います。久山療育園で時々引用される聖書に、使徒パウロの次の言葉があります。「神は見劣りのする部分をいっそう引き立たせて、体を組み立てられました」(コリント一 二二章二四節)。ところが、原文のギリシャ語は、「しかし神は、榮譽の欠けているところをもっと豊かに榮譽を与え、からだを組み立てられました。」という驚くべき言葉なのです。これこそ、神の国のイメージであり、私たちの社会や世界が映し出すように努力すべきモデルなのではないでしょうか。

主張

コロニー友の会総会での質問に答えて

—なぜ重症児者の「ケアホーム」を開設するのか—

理事長 山田 雄次

久山療育園重症児者医療療育センター（以下久山療育園）の支援組織であるパプテストコロニー友の会（以下コロニー友の会）は総会で2013年度の活動テーマを「改めて、コロニー友の会活動の強化を目ざして—新しい在宅支援プロジェクトに取り組み久山療育園への伴走をとおして—」とし、特別な取り組みとして①「在宅支援プロジェクト」第2次基本計画の「在宅支援棟」と「ケアホーム・ひさやま」の建築資金作りの募金協力と②年間1,200万円の赤字収支が予想される「ケアホーム・ひさやま」への運営支援の推進強化を決議しました。その総会の場においてのことですが、「事前

■在宅重症児者(家庭)が置かれて
いる厳しい状況に
応えて■

はなにかと考え、前号の「主張」と重なる部分が生じますがお答えさせて頂くことに致しました。

在宅重症児者の現状とそのニーズを把握するため、先般福岡県で九州ではじめての実態調査が行われ新聞で取りあげられました。市町村を通じて昨年3月の時点での身体障害者手帳1〜2級と療育手帳Aの両方の所持者を対象に行われたもので、医療的なケアが必要な在宅重症児者の実数を都道府県レベルで把握したケースは珍しく関係者の注目を集めました。それによると重症児者は福岡県全体で3,019人で、その内在宅は64・2%の1,938人でその在宅家庭へのアンケート調査(内1,059家庭からの回答)により、はじめての在宅重症児者の実状が明らかになりました。主たる内容を紹介しますと、年齢は18才未満が約40%の1,207名。18才以上の成人が約60%の1,811名。障害程度は約40%が寝たきりで半数以上が食事、入浴、排便その他で全面介護が必要。医療的ケアは痰の吸引、経管栄養・ネブライ

ザー、酸素吸入、気管内挿管・気管切開、人口呼吸その他を内容とし、約40%が必要とする状況。主たる介護者は90%が父母で40〜50才代が中心で今後は高令化に向かうということ。睡眠時間は平均5時間以下。入所利用については障害の重度化、医療的ケアの困難さ、親の高令化等の理由で、将来40%の入所希望がある事。等々、介護の重い負担が家族にのしかかるといふ厳しい現実と将来への不安があり、行政の施策と在宅の重症児者に対する「受け皿」づくりが強く求められていることが訴えられていました。

■在宅重症児者の受け皿としての「ケアホーム・ひさやま」■

共同生活介護事業「ケアホーム」は介護を必要とする人(障害程度区分2以上)に対し、夜間における共同生活の場(居宅)でさまざまな生活の介護(食事、入浴、排便その他)を行う在宅サービス事業であり、本来重い障害を負った重症児者を対象としたものではありませんが、しかしさまざまな深刻な事情を抱え、厳しい状況の中にある在宅重症児者家庭からの強い在宅支援の訴えに何とか応えてゆきたい、という思いからその「受け皿」として医療的ケアの度合いの低い重症児者(障害程度区分5〜6)を対象とした「ケアホーム・ひさやま」の開設計画が生まれました。そしてその取り組みを推めてゆく中でこの度の福岡県の

在宅重症児者の現状、特にそのニーズに関する実態調査の報告があり意を強くしました。在宅重症児者の「受け皿」としての「ケアホーム・ひさやま」の開設が時期に叶った課題へのチャレンジジとしてあるのだという思いに至ったからです。

「ケアホーム・ひさやま」は久山療育園の西側の隣接農地に別施設として建てられ、建て物は居室・食堂・浴室・居室10室その他を1階にとり、鉄筋コンクリート地上2階建て、789㎡(238・94坪)の構造となっています。入居定員は10名で、職員配置は11・42名で人員配置が一般の場合より厚くなっているのが重症児者のケアホームの特徴となっています。生活介護事業なので医療的行為は行われませんが医療的ケアを必要とする特別な事態が生じた時は久山療育園との連携において適切な対応がなされます。

「ケアホーム・ひさやま」での入居者の生活は、夜間における介護が主なるものとなりますが、日中活動の場としては園(在宅支援棟)での「通園事業」や「訪問事業」、「相談支援事業」など、利用者の生活の質の豊かさに資するサービスの提供が用意されています。多様な障害のニーズによりこれ迄他の箇所ですさまな形での「ケアホーム」の開設が行われて来ましたが正確な意味での重症児者

を対象とした事例は無く、在宅重症児者の「受け皿」としての在宅支援のモデルケースとなっていくことを期待しています。

■「ケアホーム・ひさやま」の開設に懸ける思い■

「ケアホーム・ひさやま」の開設は重症児者の新しい在宅支援のモデルケースを目ざす夢のあるプロジェクトですが一つの問題は重症児者が対象となるための配置を厚くする必要がある、経営収支が厳しく、年間1,200万円程度の赤字決算になるということでした。そのことを踏まえた上で推進が決まったのは2012年12月に開催された理事会・評議員会での協議を至ることでした。提出された資料に基づき真剣な協議が行われた後、「厳しい運営努力」と「赤字補填のためのしつかりした手立てを行う」ということを条件に推進が決議されました。「新しい在宅支援の取り組みの課題は積極的に受けとめてゆくべきだ」という総意に至ったからです。

久山療育園は「重症児者が社会の真中に位置付けられて生きる福祉社会づくりの拠点となる」ということを設立の目的として謳っています。在宅重症児者の「受け皿」としての共同生活介護事業「ケアホーム・ひさやま」の開設がその設立の目的の実現に向かっての更なる一歩となることを強く願っています。

ました。「ケアホーム・ひさやま」の開設の事に関しては既にさまざまな形で取りあげられ、説明がなされて来ていますが、「赤字決算となることを承知の上でなぜこの事業に取り組みのか」という質問に対しては別の意味で全国にあるコロニー友の会と多くの支援者の方々にお答えする必要があるのだ

「平成25年度全国重症心身障害施設協議会報告」

センター長 宮崎信義

はじめに

今年の全国重症心身障害児施設長会議は、新たに公益社団法人となった「日本重症心身障害福祉協会」の主催で、5月9～10日に「全国重症心身障害施設協議会」として開催されました。焦点はやはり今年度から施行された障害者総合支援法の中身だったと思います。参加施設は122施設(施設総数129施設)で参加者は360名でした。これも各施設の関心の高さを示すものです。障害者自立支援法の時からもう一つ不透明だった障害福祉の内容(支給量や自己負担、障害程度区分、施設事業体系など)が行政説明やシンポジウムで模索されました。また福祉費と両輪である診療報酬の改定についても協議されました。重症児者ご本人と保護者の皆様に直接影響することなので真剣に聴き、討議されました。以下にその概要をお伝え致します。

また協会総会で挨拶された岡田喜篤代表理事が、重症児(者)の推計値(2007年・平成19年)が人口の0.034%と確認されたと述べられましたが、この推計によると全国の重症児者総数は約

43,000人ですのうち66%は在宅重症児者となります。

行政説明

講師は障害福祉課障害児・発達障害者支援室長の阿萬哲也氏でしたが、昨年より一歩踏み込んだ行政説明だったと思います。その要点について述べます。

1. 障害福祉施策のこれまでの経緯等
①法律制度の流れでは、平成18年の障害者自立支援法(平成24年改正)の成立・制定。平成23年の障害者基本法(昭和45年制定)の一部改正(共生社会の実現、「療育」の新設)。その流れに沿って平成25年の障害者総合支援法(地域社会における共生の実現、難病等も対象に)があります。
②障害福祉サービス算の伸びとして平成25年度案は8、689億円(平成18年度は4、375億円)と伸長していることが強調されました。
③障害福祉サービス利用者が増加(平成24年12月)については、障害福祉サービス利用者約64.8万人。障害児支援の利用者11.5万人(国保連データ)と

いう統計値を呈示されました。

2. 「つなぎ法」と障害者自立支援法等の改正

①利用者負担の見直し(応能負担を原則に、約93.4%が負担なし)。②児童と成人で異なる体系となったが、平成24年度からは児者の併設が増加していること。

3. 重症心身障害児者施策の現状

①重症心身障害に対する支援について、施設施策による対応として、(1)重症心身障害児施設(昭和42年)→医療型障害児入所施設、(2)指定医療機関(昭和41年)→国立療養所に重症児病棟を設置、(3)療養介護(平成18年)→重症児(者)や筋ジストロフィー患者等を対象。②在宅施策の充実として、(1)重症児(者)通園事業(平成元年度モデル事業・平成8年度一般事業化)の拡充(平成24年度から児童福祉法への法定化。②短期入所の充実(自立支援法)→平成21年度は医療型短期入所の報酬単価増額、日帰り型の創設。医療ニーズの高い児者に対する特別重度支援加算を設定した。③介護職員等による痰の吸引等の医療的ケアの解禁が制度化された。③今後の課題として、(1)施設入所待機者の増加、(2)医療技術の向上、ポストNICU(新生児集中治療室)の問題(施設の医療機

能の充実)。③本人・家族の高齢化、在宅者の増加があります。

4. 障害者総合支援法の施行

①障害者の範囲の見直し「制度の谷間」を埋めるべく、障害者の範囲に難病等も加えること。②障害支援区分の創設について、これまでの「障害程度区分」が「障害の程度(重さ)」ではなく、標準的な支援の必要の度合を示す区分がわかりにくい点を再考する。認定に当たった際の配慮として、知的障害・精神障害の特性に配慮する。今後の給付は社会的状況(介護者・居住の状況等)を考慮すべきであること。支給決定の在り方の検討(附則第3条1項)については、施行後3年(平成27年度)を目途とすること。③障害者に対する支援については、(1)重度訪問介護の対象拡大(重度の肢体不自由者に加え、重度の知的障害者・精神障害者に拡大)、(2)共同生活介護(CH)の共同生活援助(GH)への一元化(平成26年度)。現在5、241事業所(51%)が一体型。ケアホーム単独は21%。

シンポジウム

シンポジウムの主題「重症心身障害児施設のこれから」について、重症心身障害施設の施設長や事務管理者、看護部長、在宅療育支援責任者と東京都重症心身障害児(者)を守る会会長の岩城節子氏からご自身の体験や活動について発表されました。

詳細な内容は誌面の関係で略しますが、テーマとして①「入所機能と在宅支援機能の将来像について」施設運営の立場から、②「人材確保と改正労働契約法」、③「重症心身障害児施設の現状と将来像」施設看護師の立場から、④「魅力ある職場作りと人材育成」、⑤「在宅療育支援の強化、特にNICU退院時の支援について」、⑥「在宅療育支援の強化、特にNICU退院時の支援について」、⑦「在宅重症児者の現状と将来の希望」保護者の立場から」の公演があり、熱心な質疑応答がなされました。

シンポジウムを通して銘記すべきと考えたことを以下に列挙します。

● 障害者の統計(障害者白書など)から重症心身障害は0.4%ですが、個々の障害別の割合は身体障害40.5%、知的障害6.1%、精神障害35.7%、発達障害17.3%となっている。
● 人材確保に関する現状の課題として、専門職の確保が困難な

5. 最近の話題として、①障害者虐待防止法の施行(平成24年10月)、②精神保健福祉法改正案の国会上程(平成25年4月)が挙げられました。

ことや安心して働ける環境作り、改正労働契約法への対応の必要性。

●施設の現状の課題として、重症心身障害児者の高齢化(一般の高齢者との差異、療育と看取り)、重症心身障害児者のニーズの拡大、知的・運動支援の多様化、職員の確保・育成困難(医師・看護師・支援員など)が挙げられました。重症児(者)施設の担う役割について歴史的に見れば、寿命を全うできるようになったのは療育・医療・看護・訓練・発達支援の総合的支援(の力)と言えるのでは。今後

も施設に求められる課題として、地域生活総合支援の充実(通所・訪問・レスパイト・短期・長期入所・相談支援)があり、療養介護・生活介護だけでなく「療育介護」という視点が求められる。

●専門性を高めるための施設内研修の必要性、認定コース(摂食嚥下・ポジショニング・呼吸療法など)。在宅移行の課題として、在宅の急性期化(訪問看護を毎日必要とする、死亡は約5〜7%と高率)、家族力の低下(家族内の問題、核家族化など)。保護者の立場から以下のように在宅重症児者の現状と将来の希望がアピールされました。

●多くの親は在宅でわが子と一

緒に暮らしたいと思っているが、在宅を支えるには施設の力が大きい。訪問看護や短期入所、通所の他にも、特別支援教育の充実やヘルパー派遣が必要。

●短期入所は不可欠だが病床が少なく、また自宅の近くにない場合がある。在宅児者の約8割は常時、医療的ケアを必要とする。

●未だにレスパイトに対する理解が少なく、利用する際に理由を聞かれる。

●入所待機者の問題として、高齢化と共に託す施設が必要となるが、都では緊急度によって順番が決まる。空床がなく短期間で施設の変更が必要となっている。

●特別支援学校の定員不足、また教員も不足。卒業後の進路に格差が大きい(通所施設など)。幼児だけでなく全年齢層で訪問看護が必要。重症児(者)に対応できるヘルパーも必要。

平成26年度診療報酬改定

「平成26年度診療報酬改定について」の報告がむらさき愛育園園長の北住映二氏から提起され、平成24年度改定が全体改定率 110.004% であったことと、経済状況や社会情勢から考察し、平成26年度改定はマイナス改定となる可能性も言われていると述べられました。社会問題の遠望から、「2025年問題」(団塊世代が75歳以上になる)を見据えた改定で

あること。「医療」から「福祉・介護」へ、在宅医療の重視、入院病床の再編の流れ、入院医療費削減等の予測がなされています。

協会としては平成26年度改定に向けて、障害者施設等入院基本料が現行通り(13対1、15対1看護配置も含め)維持されることを基本目標とせざるを得ないこと。本年1月に要望書を提出した結果、障害福祉課から2項目に絞るよう

に指示があり、下記の要望書を提出した。「7対1配置」の基準緩和については要望提出自体も不可とされた。①超重症児者加算1、400点、準超重症児者加算1、000点への増額。②在宅療養超重症児者・準超重症児者入院医療管理料5、000点の新設が挙げられたが、②については障害福祉課で検討され、「超重症・準超重症児者緊急時入院医療体制整備加算(1、000点)」に変更され、障害保健福祉部内での検討を経て医療課に提出された。

重症児者実態調査

貴重な統計である超重症児者(者)・準超重症児者(者)実態調査(2011年度・平成23年度実態)が報告されましたが、主な内容を以下に列挙します。
1. 入所超重症児者総数―2011年度は総数1151人で前年より64人上回る人数です。超重症からの改善例は、排痰・吸引減少1

人、呼吸状態改善5人、ネブライザー中止1人、体調が安定7人でした。準超重症からの改善例は、排痰・吸引減少4人、ネブライザー中止5人、呼吸状態改善4人、体調が安定6人、過緊張が改善4人でした。

亡くなられた方は、超重症児者41人、準重症児者30人で、死因の多くは呼吸不全(含・誤嚥等)や肺炎、心不全、敗血症(多臓器不全)、悪性腫瘍などです。

短期入所利用者については延人数7107件のうち、超重症児者791件、準重症児者1516件と合わせて総数の32.5%と利用される重症児者の医療度の高さを示しています。通園在籍児の実際については在籍者数2325人で、そのうち超重症児者は235人、準重症児者429人で合わせて総数の28.6%と通園利用者の重度化を示しています。

重症心身障害看護の専門研修

第2回認定看護師として53人が認証されましたが、昨年の第1回に認証された47人と合わせて100人の重症心身障害看護師が生まれました。有効期間は5年間で更新が求められます。九州沖縄ブロックでも制度に2年間遅れましたが、ようやく今年7月から専門研修制度が開始され16の方が受講されています。

おわりに
次期開催予定は、2014年(平成26年)5月14〜16日に鹿児島市となっています。その時にはより確かな重症児者制度となっていることを願っています。岡田喜篤代表理事が示された重症児(者)の新しい推計値0.034%を福岡県の人口 $5,077,162$ 人(推計、平成24年4月1日現在)から算出すると重症児者数は約1、724人となり、福岡県障害者福祉課から通達された実際の調査による1、757人とほぼ一致します。(旧推計値0.0298%では1511人)。この数値は責任ある行政において実態把握をされたという意義がきわめて大であると考えます。それまでは重症児者医療福祉や施設・病院、社会資源などについて「ニーズがない」と回答された歴史から見ても感慨深いものがあります。これを基点として実効性のある障害福祉サービスとなることを望みます。



社会福祉法人パプテスト心身障害児(者)を守る会
重症心身障害児施設 久山療育園重症児者医療療育センター

2012年度決算報告

2013年5月24日 理事会/評議員会提出、承認

収入

経常活動による収支の部

(単位:円)

科目	予算	決算	差異	法人	施設	通園	支援	短期入所	相談
(収入)									
0156 自立支援費等収入	322,090,000	328,095,051	-6,005,051.00		283,453,690			44,641,361	
0160 措置費収入	3,507,000	3,292,094	214,906.00		3,292,094				
0162 医療事業費収入	712,310,000	718,847,542	-6,537,542.00	690,710,202	28,137,340				
0166 補助事業収入	77,347,000	82,809,015	-5,462,015.00	0	0	65,337,800	5,083,430		12,387,785
0168 経常経費補助金収入	100,000	0	100,000.00	0	0				
0170 寄付金収入	15,100,000	20,795,561	-5,695,561.00	19,706,641	1,088,920				
0172 雑収入	9,040,000	11,047,004	-2,007,004.00	7,537,801	3,453,403	55,800	0		
0174 借入金利息補助金収入	0	0	0.00						
0176 受取利息配当金収入	2,445,000	2,004,695	440,305.00	1,994,463	10,232				
0180 経理区分間繰入金収入	518,562,000	508,611,333	9,950,667.00	0	505,890,195	2,113,369			607,769
経常活動による収入計	1,660,501,000	1,675,502,295	-15,001,295	719,949,107	825,325,874	67,506,969	5,083,430	44,641,361	12,995,554
(支出)									
0128 人件費支出	779,813,000	765,399,767	14,413,233.00	16,540,576	633,667,680	58,920,397	3,620,407	41,011,000	11,639,707
0130 事務費支出	68,565,000	62,387,597	6,177,403.00	14,775,638	43,278,836	2,697,080	201,042	180,082	1,254,919
0132 事業費支出	112,701,000	112,717,491	-16,491.00	0	102,477,842	5,482,758	2,329,000	2,427,891	0
0134 借入金利息支出	0	0	0.00						
0136 経理区分間繰入金支出	518,562,000	508,611,333	9,950,667.00	508,611,333	0			0	
経常活動による支出計	1,479,641,000	1,449,116,188	30,524,812	539,927,547	779,424,358	67,100,235	6,150,449	43,618,973	12,894,626
経常活動資金収支差額	180,860,000	226,386,107	-45,526,107	180,021,560	45,901,516	406,734	-1,067,019	1,022,388	100,928

施設整備等による収支の部

科目	予算	決算	差異	法人	施設	通園	支援	短期入所	相談
(収入)									
0183 施設整備等補助金収入			0						
0185 施設整備等寄付金収入	500,000	1,729,362	-1,229,362	1,729,362					
0187 固定資産売却収入									
施設整備等収入計	500,000	1,729,362	-1,229,362	1,729,362	0	0	0	0	0
(支出)									
固定資産取得支出	19,880,000	20,489,330	-609,330	3,350,000	16,954,330	185,000			
施設整備等支出計	19,880,000	20,489,330	-609,330	3,350,000	16,954,330	185,000	0	0	0
施設整備等資金収支差額	-19,380,000	-18,759,968	-620,032	-1,620,638	-16,954,330	-185,000	0	0	0

財務活動による収支の部

科目	予算	決算	差異	法人	施設	通園	支援	短期入所	相談
(収入)									
0190 借入金収入	0								
0194 借入金元金償還補助金収入	0								
0169 積立預金取崩収入	77,400,000	58,938,950	18,461,050	58,938,950					
財務活動収入計	77,400,000	58,938,950	18,461,050	58,938,950	0	0	0	0	0
0144 借入金元金償還金支出	0								
0146 投資有価証券取得支出	0	10,000			10,000				
0148 積立預金積立支出	236,880,000	207,585,068	29,294,932	207,585,068					
財務活動支出計	236,880,000	207,595,068	29,284,932	207,585,068	10,000	0	0	0	0
財務活動資金収支差額	-159,480,000	-148,656,118	-10,823,882	-148,646,118	-10,000	0	0	0	0

(予備費)	予算	決算	差異	法人	施設	通園	支援	短期入所	相談
予備費	2,000,000		2,000,000						

前期末支払資金残高	0	226,737,539	-226,737,539	241,569,134	-21,847,816	-180,113	1,118,602	6,178,660	-100,928
当期資金収支差額合計	0	58,970,021	-58,970,021	29,754,804	28,937,186	221,734	-1,067,019	1,022,388	100,928
当期末支払資金残高	0	285,707,560	-285,707,560	271,323,938	7,089,370	41,621	51,583	7,201,048	0

2013年5月24日(金)に開催の第1回評議員会・第2回理事会において2012年度の決算が審議され承認されました。

(決算概要)

- ・全体としては、収入において予算を上回り、支出においては予算を下回り積立金繰り入れを行う事ができた。
- ・在宅支援プロジェクト基本計画により、病床数をこれまでの87床から7床増床し94床体制となった。7月より満床となった。
- ・予定していた常勤医師確保は、2013年度から実現したが2012年度は非常勤医師で医療体制を補った。
- ・第2次在宅支援プロジェクト推進に必要な用地確保のために隣接農地購入費1,450万円を計上していたが、2013年度に移行した。
- ・収入面では、加算の減額などが発生し診療費収入が減少した。しかし増床により福祉面での収入増加の他、外来診療収入、通所収入が増加した。
- ・支出面では、人件費面で予算、前年度決算対比ともに減少した。予定されていた医師、看護師、産休職員等の補充が結果的に非常勤の職制で行われたためである。
- ・積立金については、在宅重症児者とその家族への支援の将来計画の為に繰入とした。

ご協力ありがとうございました

(2013年4月1日～6月30日) 敬称略

【法人会計】

一般献金

北白川いづみ保育園 後藤敏雄

松山和子 名越美智子 牟田逸雄

又野貴志 豊前キリスト教会 仙

川キリスト教会 榎谷悦子 ぐず

めよし 上久原区区长高橋進 東

久原区区长福田賢輔 中久原区

因敷 久芳博文 有田行彦 福岡

県立福岡特別支援学校 下久原行

政区区长今任義則 福岡第一ライ

オンズクラブ 福岡賢二・聖子

栗田昌直 南区第一地区民生委員

児童委員協議会 古川博子 北白

川いづみ保育園 西南学院大学

チャペルクワイヤ 榎谷悦子 恵

キリスト教会 恵泉バプテスト教

会女性会 大沼玲子 西南女学院

大学短期大学部付属シオン山幼稚

園保護者会 (有)昭栄メンテナンス

ス 山田有 手作り品売上 山口

正夫 西南学院中学校母の会久山

療育園献金箱

(以上414,641円)

指定献金

嘉久明子

(以上2,000,000円)

建築指定献金

山田雄次 後藤敏雄 川野直人

和白バプテスト教会バザー収益金

井上清美 福岡南キリスト教会婦

人会 志満秀武・てい子

(以上2,108,385円)

【施設会計】

一般献金

古後明朗 松永昭蔵 福岡賢二・

聖子

(以上1,007,000円)

献品

山口吉昭(はがき) 山崎和樹(は

がき) 大坪夏江(はがき) 中尾

清寿(はがき) 古賀豊(ハガキ)

名越美智子(バスタオル) 豊田拓

男(雑貨開園祭) 大沼玲子(絵本)

荒木利洋(ぬいぐるみ他開園祭)

岐阜バプテスト教会(タオル) 平

川成(足拭きマット) 安部田欽也

(はがき) 久保山信(はがき) 福

岡県理容生活衛生同業組合粕屋支

部(タオル・ケープ) 横溝玲子(タ

オル) 岡本修一(はがき) 福田

さとみ(はがき) 合屋勉(はがき)

岩崎慧祐(はがき) 安成志津子

(はがき) 横溝玲子(はがき) 佐

護ツルエ(はがき) 田上律子(は

がき) 高瀬寛(はがき) 松尾康

代(紙オムツ) 鮫島隆之(手提げ

バック) 梅津逸子(デジタルカメ

ラ) 澤田義之(はがき) 古賀美

紀(はがき) 横溝玲子(タオル)

大富キリスト教会(エプロン・タ

オル) 平川成(足拭きマット)

高倉博子(手作りバック) 野津美

恵、平田多賀子(手作りぞうり、

手編みレース) 山口吉昭(はが

き) 山崎和樹(はがき) 大坪夏

江(はがき) 中尾清寿(ハガキ)

古賀豊(はがき) 名越美智子(バ

スタオル) 豊田拓男(雑貨開園

祭) 大沼玲子(絵本) 荒木利洋

(ぬいぐるみ他開園祭) 岐阜バプ

テスト教会(タオル、雑巾) 平川

成(足拭きマット)

(以上79,200円)

コロナー友の会献金

(以上29,984円)

牟田逸雄 中島乃婦子 高須キリ

スト教会

献金申込送金先

社会福祉法人

バプテスト心身障害児(者)を守る会

〒811-2501 福岡県粕屋郡久山町大字久原 1869

久山療育園重症児者医療療育センター内

☎(092) 976-2281(代)

《郵便振込》郵便振替【01720-8-24404】

《銀行振込》西日本シティ銀行久山支店 普 71888

個人、会社共に免税の対象になります。

メール: hisayama@mpd.biglobe.ne.jp

感謝

人工呼吸器2台が年賀寄附金の助成を受けて配置されました

下旬を迎えても猛暑の続く8月22日、めぐみ棟の利用者の呼吸管理の為に、極めて重要な医療機器であるベンチレーターE360と、HT70が設置されました。この、年々重度化の度合いを増す利用者さんの命を守る大事な機器は、郵便事業株式会社平成25年度年賀

(事務部長 馬原)



支援者からの声 第六回

ミットレーベン・

共に生きる恵み

日本バプテスト連盟 早良キリスト教会

牧師 今村 幸文



私の久山療育園との関わりはシオン山教会時代に与えられました。その頃は街頭募金が小倉北区役所前の通りで行われていました。山田雄次先生や古川新兄弟を始め九州連合の有志たちと一緒にシオン山教会は、西南女学院の中から生まれた教会として女学院のために祈る使命を持っています。共々奉仕する場の一つとしてコローニー友の会の街頭募金があります。当時の宗教主事山田光道先生や他の先生方と生徒たちも声を上げて募金活動をしました。

また私は大変微力ながら久山療育園の評議員会の一員として奉仕する恵みが与えられました。シオン山教会から高松常磐町教会、名古屋平針教会へと転任し久山療育園から遠ざかりましたが、一昨年、最後の任地として福岡の早良教会に赴任して参りました。できる支援を教会のこととして取り組んでいきたいと願っています。

ミットレーベンとはコローニー友の会の標語ですが、今日の久山療育園は入所者だけでなく通園者、在宅者の方々に共に生きる関わりを持っています。重症心身障害児(者)の方やそのご家族と職員の方々、支援の方々と共に悩み、共に喜ぶ歩みを主が支え導いて下さっていることを確信しています。

ここにミットレーベン・共に生きる恵みの証を記させていただきます。

「主は「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。」(コリントの信徒への手紙二、12章9節前半)。妻の両親亡き後、義妹の親子さんと共に住んだ27年間、今春彼女は70歳で天に召されました。知的障害がありましたが、彼女を通して与えられた神の恵みは豊かなものでありました。

同居してから3年目、46歳の時、「水に入りたい」と言いました。それが「バプテストマを受けた」ということだと直ぐは気づきませんでした。更に気づいてもすぐ応答し得ず、過してしまいました。遂に主は、牧師のわたしに、みことばをもって追って来られました。「この人(たち)が黙れば、石が叫び出す(ルカによる福音書19章40節)」と。

彼女は、シオン山教会にとって初めての質問形式による信仰告白となり、バプテストマを受けたのです。彼女は愛と恵みの主、十字架の主を受けたに於いて喜びを感じ取っていたのです。それから24年、礼拝は殆ど休むことなく、教会の庭の清掃を自分の奉仕と決めていたようです。

彼女は、私たちの働きのために3度も引越しを共にしなければならなかった。それに伴う様々な変化にもかかわらず、彼女はそのすべてを受容し、どこであつても変わらず生活し、いつも変わらない笑顔で家族や教会の人々に接しました。親しくなった人々には礼拝で会おうと、肩をポンポンと軽く触れて挨拶していました。その存在は、この教会であつても「親子さんがいるとホッとすると」「親子さんの笑顔は最高」と言われました。

13年前、彼女は悪性リンパ腫で8時間にも及ぶ手術を受け、8カ月の入院生活をしました。入院中は祈りを求め、自らもよく祈りました。耳が遠かったので大きな声で祈るので、同室の患者さんたちから、祈りを求められるほどでした。親子さんの祈りは短く、いつもおなじでしたが、いつも穏やかな表情で洗濯物を取り入れたたり、たたんだりして家事を手伝っていました。

6日間の入院、息を引き取るまでの姿は、御手に全てを委ねたものでした。彼女の存在によってどんなに慰められ励まされていたかを痛感しています。最後に、久山療育園支援の輪がさらに広げられ、強められるように祈り願っています。

福音の窓

藤田 英彦

主はこう言われる、「あなたがたはわかれ道に立って、よく見、いにしへの道につき、よい道がどれかを尋ねて、その道に歩み、そしてあなたがたの魂のために、安息を得よ。」

エレミヤ6:16
《口語訳》

7月21日の参議院選挙では、予測された通り自民党の一強体制が確立し維新、みんなの党を加えれば改憲に必要な国会議員の3分の2に迫る勢いです。

アベノミクスを唱えての景気上昇に幻惑されたこの国は、改憲、集団的自衛権、原発再稼働、TPP参加、生活格差の拡大等の重い課題と対峙しなければならぬ時代を迎えます。また、安倍自民党の唱える「戦後レジームの清算」の実態とは何でしょうか。再び天皇を「元首」とし「戦争の出来る国にする」ために改憲し、明治維新以来の天皇制軍国主義に基づく富国強兵、殖産興業による侵略を根本的に支えて来た「大日本帝国憲法」の時代に復帰するかどうか。その帰結するところがある敗戦であり、日本国の破壊であつたのでは。

第9条だけでなく、主権在民、人權の尊重は、敗戦後の日本の誇りとすべき憲法です。むしろ、自民党が目論む国の在り方として第3章改訂を注意深く見届ける大切さを痛感します。安倍氏が総理就任の際に人指し指を一本突き出し「豊かな国、強い国No.1日本」と叫んだその指先は何を指していたのでしょうか。

エレミヤは、紀元前600年代にイスラエルの民衆の中にあつて、民衆と共に苦しみながら神から召命を受け、神の言葉を聴いた預言者です。ここで、新共同訳では「さまざまな道に立って、眺めよ。」ですが、ケンブリッジ注解書では「十字路に立ち止まれ。」となつています。西南学院大学神学部の日原先生にお聞きしたところ「凝視する」「目を凝らして見る」という意味で、たださまざまな道に立って、(ぼんやり)眺める」ではなさそうです。

有権者の半数に近い棄権者。ただ批判するだけのマスコミなど、「眺める」でなく、あらゆるものがグローバル化し、混沌とした今日の状況の中で、じっくりと私たちの生き方を見据えながら判断し行動するものがあったらと思います。

バプテストが最も大切にして来た「神の前に凡ては平等であり、各個の人權と自由の尊重」は護らねばならないという主張に反する自民改憲草案に対して教会はしっかりと目を開いて行かなければならない時代の到来を覚えます。

災害対策訓練を通して

6月1日(土)に、大災害(地震)を想定した災害対策訓練を行いました。

今回は、平日の日に地震度6の地震が発生。ライフラインは停電のみ、ガス・水は使用可能という想定で訓練を実施しました。実際に電源を切り、全館停電の中、非常用自家発電機のみで10時から15時まで訓練を行いました。

また、平日の災害発生ということで、通所や外来の利用者が帰宅出来ないという想定も含めて訓練を行いました。

訓練の目的は、①3年前の訓練後に変更した非常照明の点灯状態の確認、②LCUの移動状態の確認、③停電の中での業務遂行の確認、④通所、外来者、ボランティアさんへの対応確認、⑤非常用発

電機の容量確認、⑥重要文書やルテの持出確認。

職員一人一人が真剣に取り組み、実りある訓練となりました。

今回の訓練を通して、新たな課題も多く出されました。

夜間に発生した場合の対応やマンパワーの確保、ガス・水が使えない場合の対応、職員の食糧確保など。更には非常用コンセントと照明の不足箇所も新たに発見されました。

災害には定義がなく、基準を作るのが難しいのですが、訓練を通して一人一人の意識を高める事と、災害対策用のマニュアル作成を進めて行くことを考えています。

東日本大震災から早2年。あの出来事を忘れず訓練を通して、意識の向上と、災害が起きた時に迅速に対応できる環境づくりを目指して行きたいと思えます。

(設備管理 二宮)



メモ帳

【4月】

▽2日 通所保護者総会・通所始園式(利用者23名、保護者43名参加) ▽4日 新職員対象防災避難訓練 ▽8日 福岡特別支援学校始業式 ▽13日 社会福祉法人キリスト者奉仕会30周年式典(オームタガーデンホテル) ▽21日 保護者の会総会・久山療育園との懇談会

▽26日 通所保護者会、博多高等学校事前オリエンテーション(30名) 【5月】 ▽2日 糟屋保険福祉事務所来園(2名)、西南学院大学 社会福祉学科サービステキニ利用実習(20名) ▽6日 認定看護師研修運営会議(8名) ▽13日 博多学園看護専攻科小児看護学実習(6名) 5/17 ▽15日 福岡県重症児者を守る会療育キャンプ研修(研修生21名、事務局員1名) ▽17日 福岡特別支援学校高等部より訓練見学(2名) ▽18日 2013年度運動会 ▽20日 博多高等学校看護専攻科小児看護学実習(6名) 5/24 ▽22日 三野原病院ささぐり訪問看護ステーション訓練見学(3名)

▽24日 福岡市南区第1地区民生委員児童委員協議会施設見学会(19名) ▽27日 博多高等学校看護専攻科小児看護学実習(5名) 5/31、精華女子短期大学幼児保育科実習(4名) 6/5 ▽29日 南福岡特別支援学校高等部通園実習(1名)

【6月】 ▽3日 福岡県福祉労働部来園(4名)、西南学院大学社会福祉学科実習(2名) 6/18 ▽4日 篠栗中学校先生来訪(1名) ▽5日 粕屋保健福祉事務所主催・福岡大学医学部3年生実習①(保健福祉事務所より1名、実習生5名) ▽6日 ボランティア懇談会(ボランティア17名参加) ▽8日 LCU入口床張替工事、二日市徳洲会病院施設見学(5名) ▽9日 篠栗教会花の日訪問(10名)、福岡西部バプテスト教会花の日訪問(15名) ▽10日 博多高等学校看護専攻科小児看護学実習(6名) 6/14 ▽11日 福岡県新任職員研修(3名) ▽12日 粕屋保健福祉事務所主催・福岡大学医学部3年生実習②(保健福祉事務所より1名、実習生6名) ▽13日 福岡特別支援学校高等部通所実習(1名)、通所避難訓練 ▽

14日 シオン山7幼稚園母の会見学(12名)、南福岡特別支援学校高等部通所見学(5名) ▽15日 保護者会役員との懇談会、テレベルトグリーンボランティア演奏会(演奏者他、計5名)、九州地区重症心身障害福祉協会認定・看護師研修運営委員会(9名) ▽20日 福岡特別支援学校授業参観・懇談会 6/21、新宮町障害福祉課通所見学(7名) ▽24日 私設病院協会看護学校小児看護学実習 6/25 ▽25日 麻生リハビリテーション専門学校OT一日実習(学生20名、引率3名) ▽27日 フェリス女子学園同窓生による楽器演奏(3名) ▽28日 篠栗中学校福祉体験学習(4名)

職員の異動

(5/8~7/31)

【退職】

▽手島一雄(看護師) 5/15付
▽智原美樹(看護師) 6/30付
▽谷相裕之(看護師) 6/30付

【採用】

▽窪田次男(法人(粕屋6町自立支援協議会事務) / 非常勤) 6/1付
▽池田リサ(介護福祉士) 7/16付

初夏の爽やかな季節、イベントいっぱい!

『すてきな招待状』

「クロスガーデンに遊びに来ませんか?」ある日、こんな素敵な招待があり、出掛けることになりました。今年建てられたばかりのクロスガーデン。「どんなところだろう?」と私たちは心を躍らせました。

「いらっしやうい」大きな声と素敵な笑顔で迎えてくださり、私たちのワクワクも最高潮になりました。まず入ると、広いカフェがあり、そこは自由にくつろげるフリースペースとなっています。近所の方々も立ち寄り、新しい出会いもあるとのことでした。その出会いの場で、当センターを知って頂ければと思い、私たちは久山のパンフレットやDVDをお渡ししました。快く受け取って下さり、「コーナーを作ろうかしら?」なんて嬉しいお言葉も…。

天井の高いチャペルでは先生方がギターやピアノを演奏して下さり、讚美歌を歌うことも出来ました。

今年度はバスハイクや園



チャペルにて



パンフレットです! どうぞ!!

(ひかり棟 道子&律子 & 保育士・陣内晶子)

ひかり棟LCU 園芸活動について

気持ちのいい日射しと風に誘われて、ちょっとグラウンドをお散歩♪そんな時には、どうぞLCUの前にある花壇に足を伸ばして見て下さい。赤や黄色、緑の鮮やかな野菜の沢山あったLCU自慢の畑がそこにはあります。

畑に詳しいスタッフやボランティアさんにご協力頂き、LCUの園芸活動では、今年度は「畑づくり」を行っています。晴れの日には畑にお水をあげつつ観察日記を付けたり、収穫した野菜を手にとったりして、毎日食べているお野菜がどのようにして育ち、実の

るのかを学んでいます。「土の香りがするね」「ピーマンはツルツルしてるね」「美味しそうだね」と話すその表情はキラキラと輝き、



なすびの観察日記を描いています

運動会

5月18日に運動会が行われました。天気予報では、絶対に雨と言われていましたが当日になるととても良い天気!

今年の聖火を担当して下さいましたのは、ひかり棟桃野さん。今年で還暦を迎えるということで、元気いっぱい笑顔いっぱい務めて下さいました。通所の方々も競技種目に参加され、大勢で競技に取り組みました。なめこを収穫したり、

勇者になったり…どの種目も大いに盛り上がりました!そして、毎年恒例の職員の新人紹介。今年も体を張ったパフォーマンスで皆を笑わせてくれました。

最後には、これまた恒例の風船飛ばし。色とりどりの風船に手を振りながら飛んで行くのを見るのは、とても良い光景でした。毎年その時の流行りが感じ取れる運動会。

来年はどんな運動会になるのかな?

(ひかり棟 介護福祉士 沖西)



聖火点火!!



真っ赤なトマトを収穫しました

(ひかり棟 介護福祉士 山口)

祭りや園外活動と盛りだくさん!

『楽しかった夏祭り』

7月27日、今日は待ちに待った夏祭り☆前日にはちょうちんが飾られているのを見てみんなでわくわくどきどき!当日はみんなで浴衣や甚平を着て、気分も最高潮に!!

1階と2階には様々なお店があつて、ゲームで景品をもらったり食堂でたこ焼きやアイスクリームを食べたりと、みんなお祭りを思う存分楽しんでいました。

15時から交流ホールで盆踊り♪トーマスとゴードンも遊びに来てくれて、みんな素敵な笑顔☆それをしっかりと写真におさめるスタッフ☆

最後にみんなでまんまる音頭を元気いっばい歌ったり、踊ったりしました。そして夜は恒例の花火!風がちよっと強かったけど、うちわで煙を扇いだのもいい思い出。

夏祭りで、またたくさん思い出ができましたね!

(めぐみ棟 介護福祉士 野邊)



甚平姿が素敵です!

プラネタリウムでうっとり

2013年6月28日 金曜日

今日のはめぐみ棟の大原信幸さん、草場貴子さん、松尾康代さん、藤井沙耶香さん、牟田勝幸さんの5名と保護者3名、ボランティアさん1名、職員5名の大人数で園外活動で宗像ユリックスへ行きました。その日天候も良く、車2台で目的地へいざ出発!!

私も園外活動が久しぶりで不安と緊張と楽しみの中1日が始まりました。

朝が早かったせいか、出発前まではみんな夢の中でしたが、出発するとしつかり起き、窓の外を見たり「今日はどこに行くのかな」と周りをキョロキョロしていました。

バスに揺れること30分:

宗像ユリックスに到着し、メインのプラネタリウムへ!!四季の星座や普段見られない星の数々を見ることができ、最後まで一生懸命見ている利用者様の様子を見ることが出来ました。そんな中進行のお姉さんの声に癒され、リラックスしつつ大原さんは、あまりの気持ち良さに星を眺めながらまたまた夢の中へ...あつという間の50分間でした。

その後昼食も兼ねて昼休みをとり、天候も良かった為外に出て保護者と自由散策し、記念撮影をして、バスに乗って、久山療育園に帰りました。帰りのバスの中では、みんな疲れていたせいかぐっすり眠っていました。

その間保護者の方と職員

で昔の療育園の行事や活動の思い出話が聞けて、今後の療育園の行事や活動に活かせていけたらなと思えました。



6月28日 宗像ユリックス

今日1日を終えて、最初の不安や緊張もすべて楽しさに変わり利用者様の笑顔もたくさん見ることができて、本当に良かったです。ありがとうございました。

(めぐみ棟 介護福祉士 鳥飼)

わくわく夜のお出かけ

〈盆踊りの巻〉

毎年8月のお盆になると、療育園の周りでもお祭りが開催されます。今年もいちばん近い東久原という地域で行われるお祭りに参加しました。例年2~3人で行っていたのですが、今年のはりきって7人の利用者と共に大人数で出かけました。

この夏は暑さも厳しく、『夕方になっても暑さは大丈夫?』『利用者への負担は?』など心配もしましたが、そこは日頃の行いの良い療育園の仲間たちのおかげで、涼しい風の中、出掛ける事ができました。

盆踊りが始まる前に、まずはお楽しみの買い物です。からあげ・ポテトなどの美味しそうな物やくじ引きゲーム等、どれもワクワクするものばかりで、地域の方々にやさしく声を掛けられながら、楽しく買い物できました。

しばらくすると、公園の横に立てられた櫓に子供たちが集まってきました。曲が流れだすと子どもたちは自然と輪になり踊り出しました。聞けば、何週間も前から練習したとのこと。みんな自然と手が動いています。私たちも輪になり、調子よく車椅子でステップを踏みました。お買い物よりも盆踊りを楽しみにしていた利用者も多く、軽快なリズムと手拍子にみんな笑顔があふれていました。

何曲踊ったでしょうか...夕焼けでみんなの顔が照らされる頃、盆踊りも終了となりました。お祭りはそこから、第2部があるらしく、カラオケや仮装大会などがあつたそう。私たちが地域の方々に挨拶をし『また来たいね』と笑いあいました。

みなさんの町のお祭りはどんなお祭りですか?なかなか行けないけど、たくさん話が聞けるとうれしいなと思います。ぜひ、お祭りの話をしに療育園へお立ち寄りください!



(ひかり棟 保育士 陣内)

外来療育 宇宙

「何の音かな？」 楽しい音楽療法」



通所での宇宙の活動が始まって早くも4か月が過ぎました。

新しい環境、新しいスタッフにもすぐに慣れ笑顔で来所してくる姿に「ホッ」とし、うれしく感じています。活動の中でも皆が大好きな「音楽療法」について少しご紹介したいと思います。

オレンジ色のプーさんのエプロンを着た笑顔の素敵な佐藤先生が個々の子どもたちに合せたプログラムの中で感覚刺激を十分に引き出しながら色々な楽器(クラベス・カバサ・ギロ・ツリーチャイムなど)を使って興味を見つけて広げていってくれます。音が身体に伝わりとニコリ笑ったり、唇でピクピクリズムを取ったり・・・子どもたちのいろいろな表情にその場の雰囲気も明るくなります。月に一度の音楽療法ですが子どもたちもとても楽しみにしていて、活動が始まると声を出して期待している様子がうかがえます。お母様方も子どもの反応をとっても楽しみにしている様子が伝わってきます。あつという間の活動時間ですが、親子、スタッフ、とても貴重な時間を共に過ごしています。これからも音楽を通して子どもたちと楽しい経験を重ねていきたいと思っています。

(通所 保育士 汐田)

待ちに待ったプール活動

今年も待ちに待ったプール活動が始まりました♪当園のプールは屋外なので、今年は天気だけでなく「PM2.5」の値も気にしながらのプール活動です。

通所のプール日は火・水・木曜日の午前中。一日当たり4名〜5名の利用、希望者全員この夏で一人当たりおよそ3回利用できるように(もつと利用したいだろうなと思いつつ・・・)計画を立てました。

通所では利用者の医療度に合せて安心してプール活動ができるように、看護師1名、2名を配置しています。今年度は久山療育園でも初めて、人工呼吸器を使用しながらのプールも行っています。

保護者の参加もOKなので、一緒に水鉄砲で遊ぶこともあります。また、ボランティアの方の助けも「とても」必要で、通所から離れたプールまでの移動介助や浮輪等のグッズ選びなどをお願いしています。(随時ボランティアの方を募集しています)

プール活動は重症心身障害者の方にとっても、十分に意味のある活動です。筋緊張で硬くなっている手足が、水の中では不思議と力が抜け、リラックスできます。また、陸地では味わえない姿勢を体験

でき、浮力が働くので少しの力でも自分で手足を動かせる可能性があります。

「今日はプールの日」と思うだけで、嬉しすぎて笑顔が止まらなく、脈が高くなったり、家を出る前から緊張したりと、「プール」という言葉は、利用者者身体的・精神的に変える力があります。天候が悪く中止になった日は、利用者の方の機嫌が悪くなる事さえあります。

通所利用者の医療度は年々高くなります。そして、そういう状況に合わせてスタッフの配置も工夫するように努力しています。「ミットレーベン」の精神を胸に、多職種のスタッフが協力し、これからも通所を盛り上げていきたいと思っています。

(通所 看護師 吉村)



☆人工呼吸器を使用してのプール活動☆
医師・看護師・PTなど、多職種のスタッフで介助をしている。マットを外してプール活動ができる様に、補助具を考案・作成中。

通所でがんばっています！

神田 晃希さん

僕は昨年高校を卒業し、四月から通所しています。神田晃希です。

四年前から、人工呼吸器をつけるようになり、重度で医療ケアも必要なので、行くところも限られていましたが、快く受け入れてくださり、本当に感謝しています。

当初は、緊張してドキドキ!!声も出ないほどでしたが、今では通所前日になると、「明日、久山よ!!」とお母さんに教えています。今、リハビリの時間に、パソコンゲームをすることにハマっています。優しいスタッフの方々に囲まれ、楽しく過ごしています。家では、DS、DVD鑑賞、週末になると友達が集まり、自家用カラオケで盛り上がりつつあります。SMA P・ディズニーマ大好きです。(SMA Pと握手したのが唯一の自慢です。)

週一回、久山療育園、福岡病院(ひまわり)に通っています。

こんな僕ですが、これからも母共々、よろしくお願ひします。

息子も楽しんでいますが、同様に、私も他のお母様方の色々なお話が聞ける、楽しい時間を過ごしています。おもしろすぎて...シワが気になるくらいです(笑)今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。(母より)



「目の前にいる人に、人として真摯に向き合う」

渡辺先生へインタビュー



診療部長の
渡辺先生

今回は、今年4月より久山の診療部長としてお勤めいただいている、渡辺先生にお話を伺いました。

Q:「医師を旨ざしたきっかけ何ですか」

A:「なんでだろう。小学校の頃から人を含めて生き物が好きだったからかな。人のためになるし、誰からも反対されないですからね。」

—渡辺先生は心臓外科が専門とのことですが

心臓外科を目指したのは、心臓というのは生命の根源で、難しいところがない。判断が曖昧なところがなくて、善し悪しの白黒がはっきりしているからです。

Q:「久山療育園との出会いはどのようなものだったのですか？」

A:「山田理事長と僕の自宅とが近くて、十数年近く前から、僕の家族が家族ぐるみ付き合いをしていた。その縁があって、久山で医師を必要としているという話を聞いたんですよ。」

—先生のご自宅から久山までかなりの距離がありますが、戸惑いや迷いなどはなかったのですか？

うん、そうだねえ。そうでもないですよ。以前は行橋の方の病院に行っていたこともあるし、そこよりも久山の方が近いからね。僕も話を聞いて興味を持ったし、これからも医師として、自分に何かできることがあるらばと思って、久山に来ることを決めましたよ。

Q:「そういう縁があったのですね。では、先生の医師としての基本的な考え方、医師としての姿勢はどのようなものか教えていただけませ

すか？」

A:「難しい質問ですね。んー。医師というのは基本的には、病気の治療やそのための研究、勉強をしていくものなんですよ。それ以外に自分でできることを考えた時：特別な環境においてだけではなくて、自分が持っている知識と感性で、自分の目の前にいる人のために努力をする、ということが僕の姿勢かな。もちろん、そのための勉強を怠ってはいけませんけど。」

—医師としてはもちろんのこと、まず人として、目の前に人々に真摯に向き合うということなのですか。

Q:「休日は何をして過ごしていますか？」

A:「趣味の音楽を楽しむために仲間と会ったり、写真を撮ったり、家族サービスマで行ったり、TVドラマを観たりしていますよ。好きなこと、やりたいことがたくさんあって、寝るのがもったいないって思うんだよね。寝ないときつ

いから、早く寝るように思ってるんですけどね

(笑)。

—写真はいつごろから始められたのですか？

写真はね、4〜5年前からです。近所にふらっと撮りに行ったり、お祭りやイベントに出かけて行って撮ったり。人も風景も、どちらも撮ってますよ。

—私も写真も音楽も好きなので、先生と趣味が共通していますね。私も趣味で、もう二十年吹奏楽をしているんですが、先生はどのような音楽をされるのですか？

音楽は小学校からのリコーダーから興味を持ちだし、中学でフルートを始めて、アマチュアバンドの人に教えてもらったりしてたんですよ。だけど高校生ころからバロック音楽にハマって、フルートよりもリコーダーの方が好きになったんだよ。それ以来、全く音を出さない日はないですね。リコーダーは実はとても歴史が古くて、いろいろな種類があつてね。と

でも面白い楽器ですよ。

Q:「そんなにたくさん種類があるんですね。話は変わるのですが、先生のヘアスタイルも眼鏡も、とても個性的で素敵ですが、何かこだわりがあったら教えてください。」

A:「特にはないですよ。でもなんだか芸術家っぽいんですよ。この風貌だと、写真を撮らせてもらいやすいんですよ(笑)。」

—そうやって、穏やかに笑う渡辺先生。どんな時も、自分が持っている知識と感性で、自分の目の前にいる人のために努力をする。仰って、柔らかい口調で答え下さった先生の優しい笑顔から、先生のお人柄が伝わってきました。同じ趣味を持つ渡辺先生とのお話は尽きず、ここではお伝えできないほどでした。

山田理事長より、先生の楽器の腕前は素晴らしいと伺っています。ご披露頂ける機会を、楽しみにしています。楽しい時間を、ありがとうございました。

(事務部総務課 高野)

共に働く仲間をお待ちしております！

看護師募集



重い心身障害児者に愛の手を

心身に重い障害を負い、それでも懸命に生きようとする重症心身障害児者の姿に、私たちは「生きること」「生命の大切さ」を教えられます。

久山療育園は地域に開かれた、新しい福祉社会の実現を目指しています。そのため、毎日たくさんのボランティアや見学者が訪れています。

久山療育園での看護は看護総論で学んだことを全て活かし、看護の原点を見つめる場です。あなたの豊かな感性と、観察力、やさしさを求めています。あなたの看護に対する理想と情熱で、この方たちに愛の手をさしのべてみませんか。

まずは、どうぞ、久山療育園をお尋ね下さい。

概要

- 経営主体：社会福祉法人・バプテスト心身障害児(者)を守る会
- 理事長：山田 雄次
- 園長：宮崎 信義(内科医師)
- 開設：1976年(昭和51年)9月25日
- 敷地：9,236.95㎡
- 延床面積：7,134.63㎡
- 建物：管理棟、めぐみ棟、ひかり棟、生活重点棟、通所棟、地域交流ホール、家族宿泊施設、研修室、看護職員宿舎(18室)
- 入所児(者)数：94人(短期入所6人)
- 通所(多機能型)：1日16人
- 診療科：内科、小児科、リハビリテーション科、歯科

在宅重症心身障害児者対象の事業：

- ・療養介護事業
- ・生活介護事業
- ・障害児入所支援事業
- ・短期入所事業
- ・通所事業
- ・生活介護事業、放課後等デイサービス
- ・児童発達支援事業
- ・地域療育等支援事業、指定相談支援事業、指定特定相談支援事業、障害児相談支援事業
- ・市町村障害者相談支援事業受託、地域生活支援事業

勤務時間

3交替制

7:00~16:00(早出)	8:00~17:00(日勤)
11:00~20:00(遅出)	12:00~21:00(中勤)
15:30~0:30(準夜)	0:00~9:00(深夜)

夜勤専門も可能

お問い合わせ先

重症心身障害児者施設 久山療育園重症児者医療療育センター

〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原1869

TEL.092-976-2281 ※まずは連絡の上、履歴書をお送り下さい(担当：看護部 曾根崎)

バプテストコロニー友の会「かべしんぶん」

2013年度 定期総会を終えて

バプテストコロニー友の会 会長 伊原幹治

バプテストコロニー友の会の2013年度総会が、6/27(木)に福岡教会で行われました。例年にも増して多い参加者でした。礼拝に続いて、山田雄次法人理事長と宮崎信義センター長の挨拶の後、議事に入り、2012年度の活動、決算と、2013年度活動計画と予算案が承認されました。久山療育園には3,527,178円がさげられました。

「友の会」の働きは、会員となつて会費や献金などを納めて活動を支えるだけでなく、その年度の総会で承認されたワークキャンプやチャリティコンサート、募金などの活動が行われているところに大きな特徴があります。「友の会」は親の会とも異なった運動体であり、久山療育園を支援することを通して、重症心身障害児者の方々が置かれている問題を共に考え、「共に生きる」ことができる社会づくりを目指しています。

また、私たちが久山療育園を支援することは、単に一民間施設を支援するというにとどまりません。なぜなら、在宅の方々も、定期的に久山療育園に通園することで、様々なサービスや機能を利用することができるからです。こ

ういうわけで、久山療育園を支援することを通して、入所していない在宅の重症児者の方々をも支援することができるようになります。そういう意味で、園には地域の「センター」としての役割の充実が期待されています。

今年度の総会でも、この点に關して、多くの時間が割られました。福岡県が初めて実施した「在宅重症児者実態調査」によりまずと、県内の在宅重症児者は1,757名で、人口の0.034%に当たり、成人が6割に達しています。更に、全体の4割が寝たきりで、人工呼吸、痰吸引などの医療的ケアが必要な状態です。このように、障害の重度化や親の高齢化で在宅家庭への支援は、必要の度合いを増しています。そのような事情を背景に、今年度は久山療育園が在宅支援プロジェクトとして、「ケアホームひさやま」(定員10名)を立ち上げることに、「友の会」としてもこれを支援して行くことになりました。



皆様のご協力をお願いいたします。(福岡ベタニヤ村教会)

バプテストコロニー友の会

2013年度の取り組み

年間テーマ「改めてバプテストコロニー友の会活動の強化を目指して」—新しい在宅支援プロジェクトに取り組む久山療育園との伴走をとおして—

久山療育園では中期5ヶ年計画の第2次在宅支援プロジェクトとして「在宅支援棟」と共働生活介護事業「ケアホームひさやま」の建設を目指し取組が進められています。「在宅支援棟」は訪問看護、居宅介護事業(ヘルパー派遣事業)など在宅支援の拠点として、共同生活介護事業「ケアホームひさやま」は医療病床の増床が難しい中、障害の重症化や親の高齢化により厳しい状況にある在宅重症児への支援の受け皿として在宅支援活動の拡充・強化を目指す新しい事業の取組みです。久山療育園が取組もうとしている新しいこの事業は在宅重症児者(家庭)から寄せられている強い支援の訴えにこたえて行うものですが、事業の推進は非常に厳しく特別な支援が必要とされ、建築のための募金と「ケアホームひさやま」の運営支援(年間1,200万円の赤字の補填)が求められています。重症児者を対象とした「ケアホームひさやま」開設の取組みを是非成功させたいと願う「コロニー友の会」挙げて支援してゆく」ということを運営委員会で協議し、総会に計り決議されました。

- 1. 建築募金(3年間で300万円)の協力について
 - 1年間100万円、3年間で300万円の募金を行い建設事業に協力する。
 - 実現の裏付け
- 2. ボランティアによる大名クロスガーデンでの「久山デー」の開催(チャリティーコンサート・ミニバザーその他の献金)
- 3. 教会・グループレベルでのミニチャリティーバザー及びコンサート等の開催
- 4. 3年間に限った個人献金の呼びかけ

2、「ケアホームひさやま」の運営支援の強化をめざす取組み

久山療育園へのコロニー友の会からの献金(今年度は374万円)は今後全額「ケアホームひさやま」の運営支援献金として献げ事業の運営推進に協力する。

經常献金(ケアホームひさやま運営支援)(年間赤字予想額1,200万円の補填に向けた)目標

	友の会員数	年会費	コロニー友の会費	+ 街頭募金	+ コロニー献金	+ チャリティーコンサート献金	= 収入合計	- 活動費	= 久山療育園への献金額
2013年度	850人	2,400円	204万円	70万円	150万円	70万円	494万円	120万円	374万円
2013年度	850人	2,400円	204万円	70万円	150万円	70万円	494万円	120万円	374万円
2014年度	1000人	2,400円	240万円	70万円	150万円	70万円	530万円	120万円	410万円
2015年度	1150人	2,400円	276万円	70万円	150万円	70万円	566万円	120万円	446万円
2016年度	1300人	2,400円	312万円	70万円	150万円	70万円	602万円	120万円	482万円
2017年度	1450人	2,400円	348万円	70万円	150万円	70万円	638万円	120万円	518万円
2018年度	1600人	2,400円	384万円	70万円	150万円	70万円	674万円	120万円	554万円
2019年度	1750人	2,400円	420万円	70万円	150万円	70万円	710万円	120万円	590万円

献金の増額は年間150名の友の会員の獲得による会員の増加による会費納入を裏付けとし、支援組織の一層の強化を計る。

在宅支援プロジェクト委員会 および設立準備室からのお知らせ

現在、久山療育園では在宅重症児者およびその保護者の方々への支援を目的とした、新たな施設「在宅支援棟及び共同生活介護棟（ケアホームひさやま）」の建築に向けて、福岡県、久山町、パプテストコロニー友の会、保護者、その他多くの関係者のご協力を得ながら建築計画を進めております。新たな施設の購入予定土地面積は2198㎡、敷地内面積は1842㎡となる予定で総工費を4億と試算しています。久山療育園では、在宅支援建築献金目標を2013年～2015年度にかけて毎年1,000万円として、第37回開園祭開催日である2013年9月23日より、新たな募金を開始することと致しました。

詳しくは9月中旬完成予定の専用チラシに記載の予定ですが、ご支援下さる方々、関係者の皆様へ広くご協力をお呼びかけさせていただきます。尚、参考までに新たな募金の振込口座の案内を右記致しますのでご参照下さい。

…………… (名 義) ……………
 在宅支援プロジェクト
 「ケアホームひさやま」募金

…………… (金融機関) ……………
 西日本シティ銀行 久山支店
 店番 739 口座番号 3002812(普)

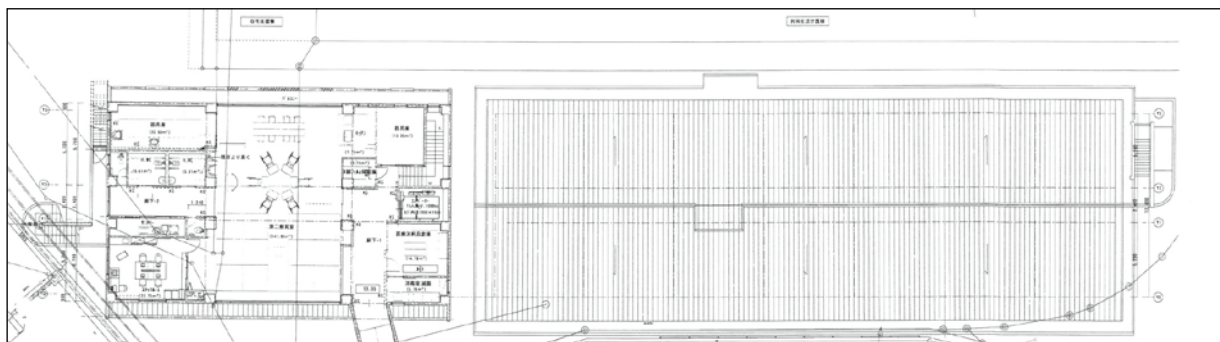
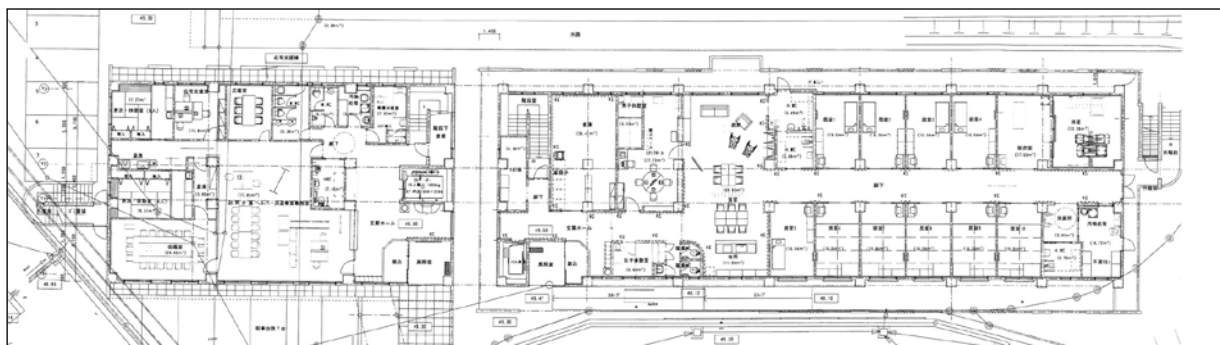
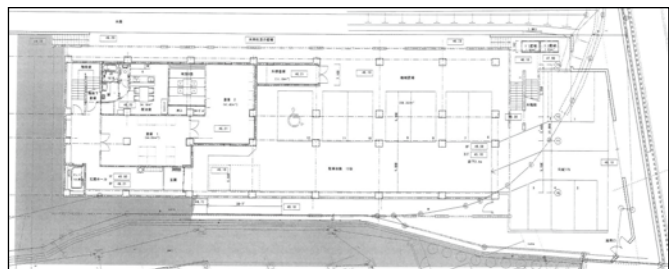
…………… (問合わせ先) ……………
 久山療育園事務部
 TEL 092 - 976-2281



在宅支援棟（昼景）



在宅支援棟（夜景）



ボランティアだより

ボランティア講習会

七月六日(土)、今年度一回目のボランティア講習会を行いました。事情があり事前にキャンセルされた方がいらっしやい

ました。事情があり事前にキャンセルされた方がいらっしやいまして、八名の方(社会人六名・学生二名)に参加いただきました。当日は朝から豪雨で、移動がとて大変な状況でしたが、皆さん予定通り来園され、とても熱心に受講して頂きました。皆さんの感想をご紹介します。「今後もボランティアとして参加していきな」と思っ(社会人)「送迎バスもあるということ、ボランティアが本当に必要とされているのだなと感じた」(学

生)「職員、入園者への深い愛情を感じた」(社会人)「ご家族の体験談が一番印象に残った。障がいをもった子との人生、施設に入所させた時の気持ちなど、様々な思いが深く伝わってきた」(社会人)「ご家族の話が聞いて良かった。まずは知ることから、理解しあひ共に支えあひ、共に生きていくたらと思う」(社会人)「自分も将来、悩みや相談をかかえた人に対し、話を聞き支援を行っていきけるような職に就きたい、という思いを強くした」(学

生)「“みえるものではなく、みえないものに目をそぐ”という言葉がとて印象的だった」(学生)「学校では学ぶことができないことを、この講習会で学ぶことができた。貴重な時間だった」(学生)「医療、看護、療育と環境が整っていることがわかった」(社会人)「すべては理念から出発していると感じた」(社会人)「久山療育園の役割、久山療育園を必要とされている方、それを支えようとする人たち、それぞれの立場からの話が聞いて有意義な一日だった」(社会人)など、さまざまな貴重な感想をいただきました。



ボランティア講習会

相談支援員 山田

行事の案内をさせてもらいました。今後も、色々なかたちで園とつながっていただければと願っています。二回目の講習会は十一月九日(土)を予定しています。たくさんの方の御参加をお待ちしております。

第37回 開園祭のご案内

テーマ「障がい児者総合支援の実践」

◎開催日時

2013年9月23日(月・祝日) 9:30～14:30

◎開催場所

久山療育園重症児者医療療育センター室内及び屋外

今年も地域の方々にたくさんお越しいただき、ゆつくり利用者やご家族の方と触れ合っていたきたいと考えています。

皆様のご来園をお待ちしています。

喫茶・展示	09:30～14:00
感謝礼拝	10:00～11:00
公開療育	11:10～11:40
模擬店・食堂バザー	11:10～14:00
チャリティ商品バザー	11:40～14:00
ふれあい広場	13:30～14:00

※スケジュールは一部変更される場合があります。

チャリティーバザー用品募集

食品・石鹸・タオル・リネン・アクセサリー・陶器・雑貨等(未使用で販売可能な品物に限る)

※衣類・古本はご遠慮下さい。

食品バザーチケット前売販売中

コーヒーセット、ジュース、カレーライス、うどん、焼きそば、フランクフルト等



昨年のバザー会場

久山療育園のホームページのURLが変わりました!

新URL → <http://www.hisayama-smid.jp/>

歩行器



今年の梅雨は前半こそ雨量の少なさが心配されたものの、6月後半から7月前半にかけてまとまった雨の続く日々を重ねた。横殴りの雨で、窓から外を見ると、まるで滝の裏側にあるような大雨に見舞われた7月6日土曜日に、2013年度前半のボランティア講習会の日を迎えた。6年前に現在のよう

な内容とし、年二回開催が続けられているが、地域から久山療育園のボランティアに興味を持つ受講者の方々を毎回迎えることのできる有難さを感じる。今回のボランティア講習会の中にも新たな参加者の方々へ、ベテランのボランティアがご自身の体験談を語るコーナーが設けられた。ご近所の知人が久山療育園へボランティアへ出向く姿を見かけて、「どこへ出かけてらっしゃるの?」と質問した事がきっかけとなり、久山でのボランティアが始まったという。もともと子どもが大好きで、久山でも利用者さんとのふれあいが楽しくてわくわくしていたまらなかつたとおっしゃった。ご主人のお仕事の都合で十年以上を関西で過ごされたが、当初知り合いの少なさに苦労したときも、先ずは新しい場所でのボランティアとして生き生きと関われる環境を探されたそうである。

(T・M)